

石島会計メモ



中央区日本橋本石町 4-5-12
友泉本石町ビル 3階
石島公認会計士事務所
(03)3275-1311
発行責任者 石島慎二郎

平成30年1月号

世代交代への道のり

石島 慎二郎

本年より、父・石島洋一から引き継ぎ、私、石島慎二郎が所長に就任いたしました。所員一同、新体制でがんばってまいりますので、今年で8年目を迎える石島会計メモ共々、お付き合いのほどよろしくお願いいたします。

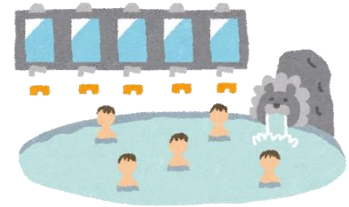
学生時代の反抗期

父は研修の出張が多く留守がちでしたが、いても会話は最低限。今となっ
ては何に腹を立てていたのかよく覚えていませんが、若い頃の私は「やっ
てみないとわからないのにいつも反対しやがって!」と不満いっぱいでした。

それなのに、私が通うスポーツジムに父が現れるようになりました。なぜ
来るのか?しかしまだ反抗期、関わりは最低限。

それでも不思議なもので、行動を共にしていると会話が
生まれてきます。風呂では裸の付き合いといいますが、
何気ない話をします。

実のところ、父は反発する私にこう考えていました。
「なぜあいつは俺のことをわからないのか?」しかし、
「なぜ俺はあいつのことをわかってやれないのか?」とふと考え、共通点
を持つためにジムに通い始めたそうです。私には知る由がありませんでした。



プロの仕事を初めて見る

ジムで一緒になったある日、友人が父の研修に参加した
がっていたので、自分も参加させてもらえよう頼みました。
そして後日、父が講師を務める研修に出席し、衝撃を
受けました。参加者が笑い、会場一体となる雰囲気を作り
出すまさに「プロ」の仕事を見せられ、驚いたのです。

感激した私は、父にメールで御礼しました。そのメールには素直に思った
ことも書きました。「石島先生といつか一緒に働きたいと思いました」



後継者目線の事業承継

公認会計士となって監査法人で勤務した後、石島会計にて一緒に働いてきました。そしてこの度の世代交代を迎えました。

後継者である私が一番悩んだのは、先代と自分を比べての重圧です。冷静に考えれば、違う人間なのですから、比べて悩んでも意味ありません。自分なりの形を模索すれば良いことなのですが、「後継者だからいいよね」「後継者なのに…」といった言葉が頭をよぎり、どうしても比べて悩んでしまう自分がいました。



しかし、父が70歳になるときが区切りだと、覚悟を決めました。そこからはやるべきことをやるだけ、慌ただしくも気は楽でした。もし今同じように二の足を踏んでいる方がいるのであれば、「いつ」を決めてしまうのはよいかもしれません。決まってしまうと、あとはやるだけです。

先代と後継者それぞれの目線

先代には、後継者に任せて大丈夫か？という不安があると思います。先代は先代の、後継者は後継者の悩みがあります。それでも、後継者同様、先代も「いつ」バトンタッチをするのか決めなければなりません。



あまり先延ばしにし過ぎると、片や先代と比べての重圧、片や後継者に引き継ぐ不安が膨らみ、タイミングをとるのがどんどん難しくなっていくおそれがあります。実際、カリスマと呼ばれる大手経営者が事業承継に苦戦しているのも、このギャップにはまってしまった可能性があります。

事業承継は最も難しい仕事のひとつと言われるくらいです。一例に過ぎませんが、私たちも実際に事業承継をした身として、それぞれの立場から寄り添い、これからの事業承継に協力していければと思います。先代、後継者、取り巻く皆様いずれの立場でも悩みがあれば、まずはご相談下さい。

これからの石島会計

世代交代し、私にとってはこれからの勝負です。事業承継の問題を含め、これまで以上に皆様のお役に立てるように務めていきたいと考えております。石島会計では、経営における喜びをよりたくさん皆様と分かち合えるような、「笑顔でとことんお付き合い」を目指していきたいと思っております。これからの石島会計をどうぞよろしくお願いいたします。





高知城満喫

(文：内藤久子)

いつか必ず行きたいと思っていた高知城へ行ってきました。
と、言う事で今回はたっぷり「高知城」です。



日本には、現存天守と呼ばれる江戸時代またはそれ以前に建築され、修復を繰り返し現在まで残っている天守が12城ありますが、その中の1つ「高知城」を満喫してきました。

歴史・築城者については詳しくないので考える余裕なく、ただ目の前にあるものに心を奪われるだけで精一杯…(お恥ずかしい限りです)。

「追手門」と「天守」が1枚の写真に

お城の正面入り口にあたる「追手門」。
この追手門も現存の門で、追手門と天守と一緒に写真に納まる貴重さに、まだ入城していないのにすでにワクワクです。ニニに何分居たことが…。
追手門を入ると、目の前は広くキョロキョロ…
もらったパンフレットをやっと広げ、本丸までのコースが「まっすぐルート」「ゆったりルート」と2つ…。
ゆったりルートで天守の裏側やら石垣周辺も散策。



いしどい 石樋



高知県は全国有数の多雨地帯のため雨対策・台風対策が重要で、石樋は城内の水を外に流すための排水設備。他の城郭には見られないもので、高知城には16ヶ所残っているとわ。16ヶ所全てを見つけるのは無理だろうけど半分くらい見たいな。と石垣の上の方をキョロキョロ。

初めての石樋。あ、ホントにある。本物だ!!
石樋に意識が行って、石垣を下ったり登ったりしているうちに、「はて？ニニはどこでしょう？」案内看板が殆ど無くパンフレットで現在地を探すのも面倒になり、適当に進んでいるうちに、せっかく数えていた石樋の数すら、分からなくなっていました。

(石樋)



忍び返し



これも始めて目にした「忍び返し」。
石垣を登ってきた敵が簡単に入り込めな
いように鉄串が並んでいます。痛そう。

この忍び返しも現存しているのは高知城のみ。
城内からは外壁に付いている串は覗けませんでした。



物見窓

四角い窓、分かりますか？

鉄砲や弓矢用の穴ではなく、城内から敵を監
視する窓。

これも現存するのは高知城しかなく、ただの
四角い枠を じーっ と眺め続けてしま
いました。



本丸御殿と天守



本丸御殿(殿様が住んでいたたり政務
を行う屋敷)と天守が完全に残っ
ているのも高知城のみ。

本丸御殿も現存するのは高知城と
川越城のみ。

現存本丸御殿制覇!!(と言っても
之れ所しかないんですけど)。

本丸御殿が入り口で、本丸御殿を通り屋根続きで
ノメートル位しか離れていない天守へ渡れました。
天守に入ると高知城全体の模型があり、
二二でもしばらく時間が経ってしまいました。



お気づきかもしれませんが、高知城だけに現存しているものがとても多い城郭
でした。城好きには外すことができないスポットです。

個人的には、国宝指定されてもいいんじゃないかという思いが強くなりながら
帰途についた「初高知城」でした。